七尾市のまちづくりの課題について

（１）観光・交流の促進に向けて

七尾市には、由緒ある和倉温泉をはじめ、世界に誇れるすばらしい観光資源がたくさんありますが、七尾市に訪れる観光客の数は、平成１４年に放映された大河ドラマ「利家とまつ」の効果により一時的に増えたものの、平成３年をピークに年々減少しております。このような中、観光客を増やし、七尾市を活性化するためには、多様化する観光ニーズに適切に対応した観光振興を図るとともに、観光地としての魅力創出や近隣自治体との連携強化、外国人誘客の促進など、あらゆる施策を展開していく必要があります。

また、豊かな自然を活かした体験滞在型交流や市民レベルの国際交流など、様々な交流が活発に行われ、多くの人々が往来する施策を展開していく必要があります。

（２）福祉・保健・医療の充実に向けて

過疎化や少子高齢化が進行していますが、特に団塊の世代が６５歳となる平成２６年頃には、市民の３人に１人が高齢者となり、福祉や医療に多大な影響を及ぼすことになります。このような中、地域で安心して生活を送るためには、子育て家庭や高齢者、障害者など、それぞれの実情に即した福祉サービスの充実を図るとともに、地域で支え合い、助け合う社会を形成していく必要があります。

また、生涯を通じて心も体も健康な生活を送るため、食育の推進や心の健康づくり、生活習慣病の予防など、様々な施策を実施していく必要があります。

（３）教育・文化の振興に向けて

少子化、過疎化の流れの中、県立高校の再編が進むなど、教育環境が大きく変わろうとしています。このような中、次代を担う子どもたちを育成するためには、小中学校においても適正な規模での教育環境を整備するとともに、子ども一人ひとりに合った適切な指導や、家庭、地域における教育力の向上など、様々な施策を実施していく一方、いじめや犯罪から子どもたちを守るために、学校や家庭、地域の連携の強化を図っていく必要があります。

また、市民一人ひとりが心豊かで充実した生活を送るため、生涯学習や生涯スポーツ活動に積極的に参加できる環境を充実していく必要があります。

さらに、郷土の歴史と文化を後世に継承するため、七尾城跡や能登国分寺跡、万行遺跡をはじめ、数多くの貴重な文化財の保全と活用を図るとともに、新しい芸術や文化を創出していく必要があります。

（４）産業活力の創出に向けて

七尾市の商工業や地場産業、農林水産業では、その担い手や後継者不足などにより、地域産業の活力が年々低下している状況であります。このような中、能越自動車道七尾東ＩＣの供用開始や北陸新幹線の金沢開業は、地域経済の活性化の起爆剤として大きな期待が寄せられています。七尾市の産業を活性化するためには、この機会を逃さず、地域固有の産業振興や新たな産業創出を図るとともに、七尾港の利用促進や中心市街地の活性化など、企業と行政が一体となって各施策を展開していく必要があります。

また、農林水産業の振興を図るため、各種基盤整備の実施やブランド化の推進、担い手の育成など、各施策を実施していく必要があります。

（５）都市基盤の整備に向けて

交流人口や定住人口の増加、地域産業の活性化や企業の誘致など、七尾市における重要な施策を展開していくためには、道路網や公共交通網、情報通信網などの整備を図り、能登半島の中核都市としての都市機能をさらに向上させる必要があります。

また、住宅や上下水道なども併せて整備し、市民が暮らしやすい都市を創出していく必要があります。

（６）生活環境の向上に向けて

平成１９年３月に発生した「能登半島地震」は、七尾市に多大な被害をもたらすとともに、災害に対する認識の甘さを露呈することになりました。市民が安全で安心した生活を送るためには、地域ネットワークの強化や災害情報の共有化など、防災体制の整備を図るとともに、凶悪化、多様化する犯罪や交通事故を未然に防止する対策を強化していく必要があります。

また、豊かな自然を守り、共に生きていくため、様々な環境対策を実施するとともに、環境に対する意識を高めていく必要があります。

（７）協働による行政経営の推進に向けて

国の三位一体改革や地方経済の低迷などにより、地方交付税や税収が減少し、七尾市の財政状況はますます厳しいものとなっております。このような中、将来にわたり健全で効率的な行政経営を行うためには、市民と行政が協働してまちづくりに取り組む必要があります。

また、市民一人ひとりの人権を尊重し、男女が対等な立場で互いに協力しあう社会の形成を図るため、様々な推進活動を行う必要があります。